

「思考力・判断力・表現力」を

評価し、育む

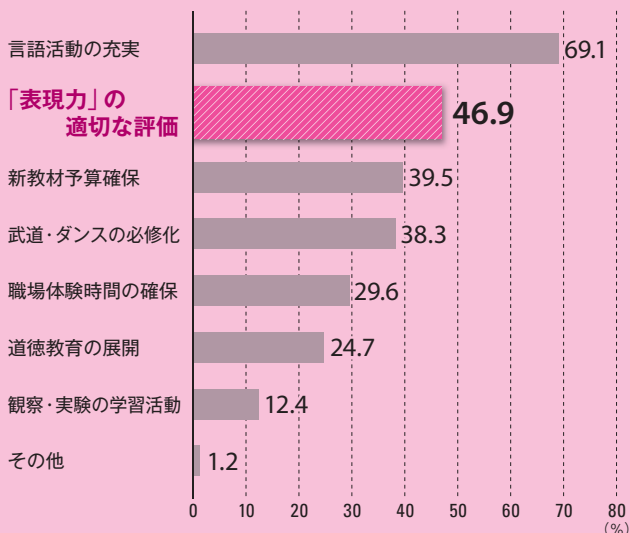
新課程では、「生きる力」の育成として、

知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力の育成などが目指されている。

今回の特集では、特に「思考力・判断力・表現力」を育成するための評価と指導のあり方について考えたい。

校長の約47%が「表現力」の評価を懸念事項として挙げている

●新課程全面実施に伴う懸念事項（校長調査）



出典／日本教育新聞（2012年1月2日）より引用 *複数回答

「思考力・判断力・表現力」を育む 評価の現状と課題

読者アンケートやヒアリングの結果を見ると、「生きる力」の育成に向けて指導の工夫は進んでいるが、その力をどのように評価すべきかについて課題を抱えている教師が多いことが明らかになった。新課程で重視されている「思考力・判断力・表現力」を育むために、評価をどのように授業に取り入れ、指導改善につなげているのか。インタビューと3校の実践事例から考える。

現状と課題

事例校の先生方の声から

- ◎多くの生徒は問題を形式的に捉えているだけで理屈が分かっていないため、言葉で説明できません。例えば、「移項」という作業を「左辺と右辺が常に成り立つように、両辺に加減乗除した結果、移動したように見えている」と理解して処理しているのか、「方程式では符号を変えて反対の辺に移動させる」と機械的に処理しているのかでは、理解までの思考のプロセスや定着度は大きく異なります
- ◎電圧計の回路へのつなぎ方を質問されて「並列です」と答えられても、実際につなげさせようとすると、つなぎ方やその順序が分からない生徒が多くいます。知識はあっても実際に手を動かし、頭を働かせて理解していないので、生きた知識として身に付いていないのです

『VIEW21』 中学版 2011 Vol.4 読者モニターアンケート結果から

- ◎テストでは数値で定着度を測ることが出来ませんが、「思考力・判断力・表現力」をどのように評価し、力を付けさせていくか。そのための具体的な活動や授業の工夫はどうすればよいのでしょうか
- ◎現状では知識・理解の評価に偏っています。技能や思考・判断・表現などの評価を重視したいので、ペーパーテスト以外の評価方法を知りたいです
- ◎グループ学習に取り組んでいますが、活動の中での生徒一人ひとりの思考過程をどう把握すればよいのか分かりません

「思考力・判断力・表現力」を評価し、育む

「思考力・判断力・表現力」を 評価し、育む上で大切なこと

インタビュー ● 東京大大学院教育学研究科教授 **秋田喜代美** …………… **P.6**

- ◎教科や単元ごとに「どのような力を育てたいか」というねらいを焦点化する
- ◎生徒の自己評価や相互評価を取り入れ、評価の視点や視野を広げる
- ◎生徒同士のかかわりを通して、思考している内容を表現させ、違いやズレの根拠を考えさせる
- ◎ワークシートなどを有効活用し、効率的に定着させる部分と、深く考えさせじっくり思考過程を見取る部分のめりはりを付ける

「思考力・判断力・表現力」を 評価し、育むための工夫

学校事例 ① **福岡県朝倉市立十文字中学校** …………… **P.10**

- ◎「単元構成シート」を活用した単元途中の形成的評価や、「文中式ノート検定」で生徒の定着度や思考の変容を丁寧に見取る
- ◎研究授業評価指標（ループリック）を用いた授業整理会を行い、生徒の学力や表現力が高まったかどうかを客観的に確認し、指導改善につなげる

学校事例 ② **埼玉県宮代町立前原中学校** …………… **P.14**

- ◎「生きた知識」として活用できる力が身に付いたかを見取るために、生徒が自分の視点で観察、実験した結果を表現できるようにワークシートを工夫
- ◎生徒の考える過程を見取りやすくするために、図や絵で表現させるなど、「思考や判断を伴う表現」の方法に自由度を持たせる

学校事例 ③ **新潟県長岡市立東中学校** …………… **P.18**

- ◎口述試験やペア活動を取り入れ、理解するまでの思考・判断の過程を可視化し、見取る
- ◎思考や判断を伴う発表力・表現力を見取り、育む場として教科外活動「教科の広場」や行事を活用